

オッカバケ川でのサケの遡上

◆羅臼町のオッカバケ川には3つのダムがあります。一番下流のダムは落差のないスリット型のダムで、魚が遡ることができます。さらに上流には鋼製タイプのダムが2つありますが、この鋼製ダムは落差が大きくて、現在、魚が遡ることはできません。このため、知床の生態系をさらに豊かにする目的で、カラフトマスやシロザケなどのサケ類が、もっと上流に遡れるように鋼製ダムを改良していく予定です。



▲下流のスリット型ダム



▲第1号 鋼製ダム



◆ダム改良の計画づくりに先立って、どれだけのカラフトマス、シロザケがオッカバケ川に来ているのかを知るために、平成28年8月から12月までカウント調査を行いました。

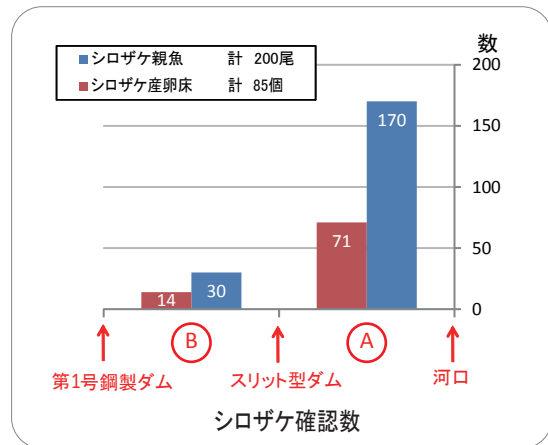
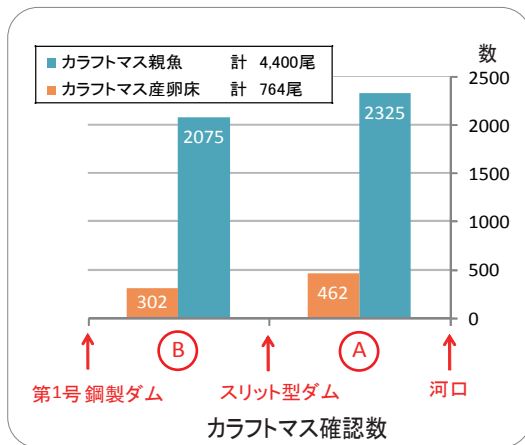
◆河口から第1号鋼製ダムの間で、平成28年はカラフトマス4,400尾、シロザケ200尾、カラフトマス産卵床764個、シロザケ産卵床85個が確認されました。また、カラフトマスとシロザケは魚止めとなっている第1号鋼製ダム直下まで遡ってきており、産卵も行われていることが分かりました。



▲シロザケ



▲カラフトマスの群れ



会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://dc.shiretoko-whc.com/>

■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター
 〒099-4355
 斜里町ウトロ東番外地（国設知床野営場内）
 TEL：0152-24-3466
 FAX：0152-24-3477

■ 発行：林野庁北海道森林管理局
 ■ 制作：株式会社 森林環境リアライズ
 発行日：2017年 月 日



北海道のサケ資源は放流により維持されていますが、最近では、自然再生産するサケ（野生サケ）も想像以上に多くいることが明らかになってきました。野生サケは地域の環境に適した遺伝子を代々受け継いでおり、放流する稚魚にもその遺伝子を引き継ぐことが重要です。工作物の改良により野生サケが増えれば、周辺地域のサケ漁業の持続性向上に繋がると期待されます。会議ではこのような視点から取り組んでいきたいと考えています。



うらべ 委員のト部です。

北海道立総合研究機構
 さけます・内水面水産試験場 主査（資源解析）
 サケマスの資源変動要因、
 河川生活期のサケマスの生息環境について
 研究しています。